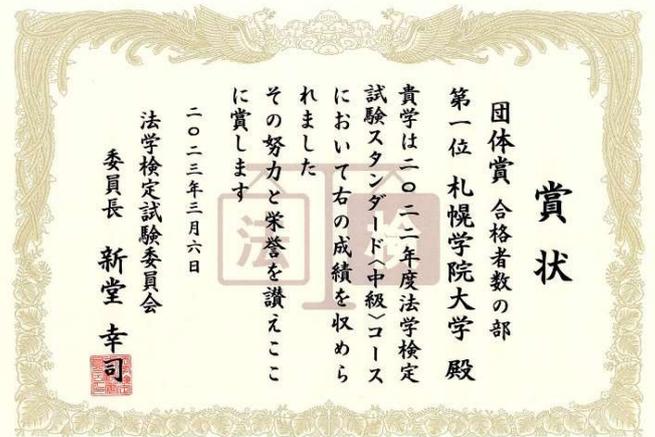


法学検定試験・公務員試験で大健闘

◆ 2022年度法学検定試験ベーシック、スタンダードの合格者数 全国1位

2022年度法学検定試験において札幌学院大学法学部はベーシックコースで121名、スタンダードコースで64名の合格者を出し、いずれも**合格者数全国1位**となり、2023年3月に団体賞の表彰を受けました。法学部では、この法学検定試験と必修の講義を連動させ、1年次から法学の基礎をしっかりと学びます。ベーシック合格者に、さらに上位のスタンダードに挑戦する指導を行っており、今回の成果となりました。このように1年次からステップ・バイ・ステップで着実に実力をつける取組みを行っています。今年度は11月26日に試験が実施され、**先輩たちに続け**と多くの学生が試験に挑戦しました。



スタンダード（中級）コース表彰状

◆ 公務員試験合格者数 40名を超えました

札幌学院大学法学部の公務員試験合格者数(延べ)は2022年度まで**4年連続で30名を超え**、2023年度12月時点で**40名を超え**ました。今年度の内定先は、国家公務員、国税専門官、労働基準監督官、北海道職員、市町村職員、消防士、警察官、北海道中学校教員など、多岐にわたっています。公務員内定者の体験談では、法学検定試験のための勉強が、実際の試験に役立ったという声がありました。1年次からの着実な学びの成果が、進路実績として実を結んでいます。札幌学院大学法学部では、公務員をはじめ多様な進路に応えるための学習プログラムを整えています。

公務員合格実績(2023年12月時点)

国家公務員一般	1
国税専門官	1
労働基準監督官	1
北海道職員（一般行政）	8
北海道職員（警察行政）	3
北海道中学校教員	1
北海道職員（学校事務）	1
札幌市職員（一般行政）	1
札幌市職員（消防）	2
道内市町村（一般事務）	4
道外市町村（一般事務・消防）	4
北海道警察	14
他都府県警察	4



法学検定試験

法学検定試験は、公益社団法人商事法務研究会法学検定試験委員会が実施する法学全般に関するわが国唯一の検定試験で、ベーシック〈基礎〉コース、スタンダード〈中級〉コース、アドバンスト〈上級〉コースの3コースで実施されています。この試験は例年11月に全国規模（札幌市、仙台市、東京都（A地区・B地区）、愛知県、京都市、大阪府、岡山市、愛媛県、福岡市、沖縄県の11会場）で実施されます。本学では、法学部の教職員が試験実施を担うことによって、江別校舎が在学生向け団体受験会場となっています。このような体制を整えることによって受験者は年々増加傾向にあり、今年度はベーシックコース、スタンダードコースの受験者数がそれぞれ187名、165名（過去最高）でした。



スタンダードコースの本学受験会場

法学検定試験受験者の声

法学検定試験スタンダード

Cさん（現3年生）

9月下旬に、あきらめたくなかったのですが、「最悪、今年の経験を活かして、来年また挑戦しよう」と考えるようになりました。それから、勉強に集中できるようになって、わからない問題の時もイライラしなくなりました。法学スタンダードスキルの授業も始まっていたので、授業で教えてもらった知識を生かすことが少しはできたのか、テキスト2周目は1周目よりも正解することができるようになっていました。法学検定試験本番まで約1か月になったら、昼休みの時間などにも、テキストを読み続けました。私は本来、ノートに書く方が知識を定着させやすいので、定着するのに時間がかかりました。勉強は大切ですが、自分の体調を第一優先で生活してください。

Dさん（現3年生）

試験が近づいた頃からテキストを一日20頁前後読むようになり、問題文と解答解説の箇所を熟読しました。ひたすら問題集を読み込むことに集中しました。頭が痛くなって読むスピードが落ちてきたときは休憩を取りました。頭がすっきりして気持ち良い状態の方が学習もはかどるので、とくに家にいる場合は仰向けになって頭を枕につけて適度に休ませてから再び問題集に取り掛かりました。試験前のおおよそ1か月は問題集を読んで休んで、を繰り返し、試験当日

の朝は早めに大学内に入って、最後の仕上げとして軽く全体的に問題集に目を通しました。試験開始のその4時間ぐらい前から大学に来て最後の復習をしました。私の勉強方法は特別なものではなく単純に問題集を読み込むこととその間に休憩をはさむのを繰り返したことです。

法学検定試験ベーシック

Eさん（現2年生）

試験の二か月前くらいまで、講座を受講し講師の話を聞いているだけ日々を過ごし、いざ問題を解こうとするとさっぱりわからず、焦りと不安な気持ちでいっぱいでした。そこで、試験日から逆算して一日に問題集の30ページだけを完璧に覚えようと目標を決め、翌日にその勉強した30ページを復習し、間違えたものは、その翌日にもう一度解くという反復練習を大切にしました。また、「確実にできるところを増やす」という勉強方法で試験当日まで取り組みました。試験一か月前からは、とにかく問題集をひたすら解き、試験当日は、十分な試験対策を行ったことで落ち着いて試験に臨むことができました。同じ目標に向かって頑張りあえた仲間、そして講師の先生の熱心なご指導のもと、最後までやり抜くことができました。法学検定ベーシックを通して、一つの目標に向かって頑張る力、そしてやり抜く力を育むことが出来ました。合格への近道は、コツコツと続けることです。

目指すのは“充実した学び”

2021年4月からスタートした新カリキュラムの特徴

◆ 1年次から法学系の基礎科目及び法学検定ベーシックの学習を開始

1年次には「学部コア科目」、つまり法律学の根幹をなす科目である憲法、民法、刑法を学習するとともに、「法学ベーシックスキル」の履修を通じて法学検定試験ベーシックにチャレンジし、「ステップ・バイ・ステップ」で着実な資格取得への第一歩を踏み出します。また、「キャリアデザイン科目」の1つであるエキスパートゼミナールAでは「公務員として働くことの意味」について学びます。

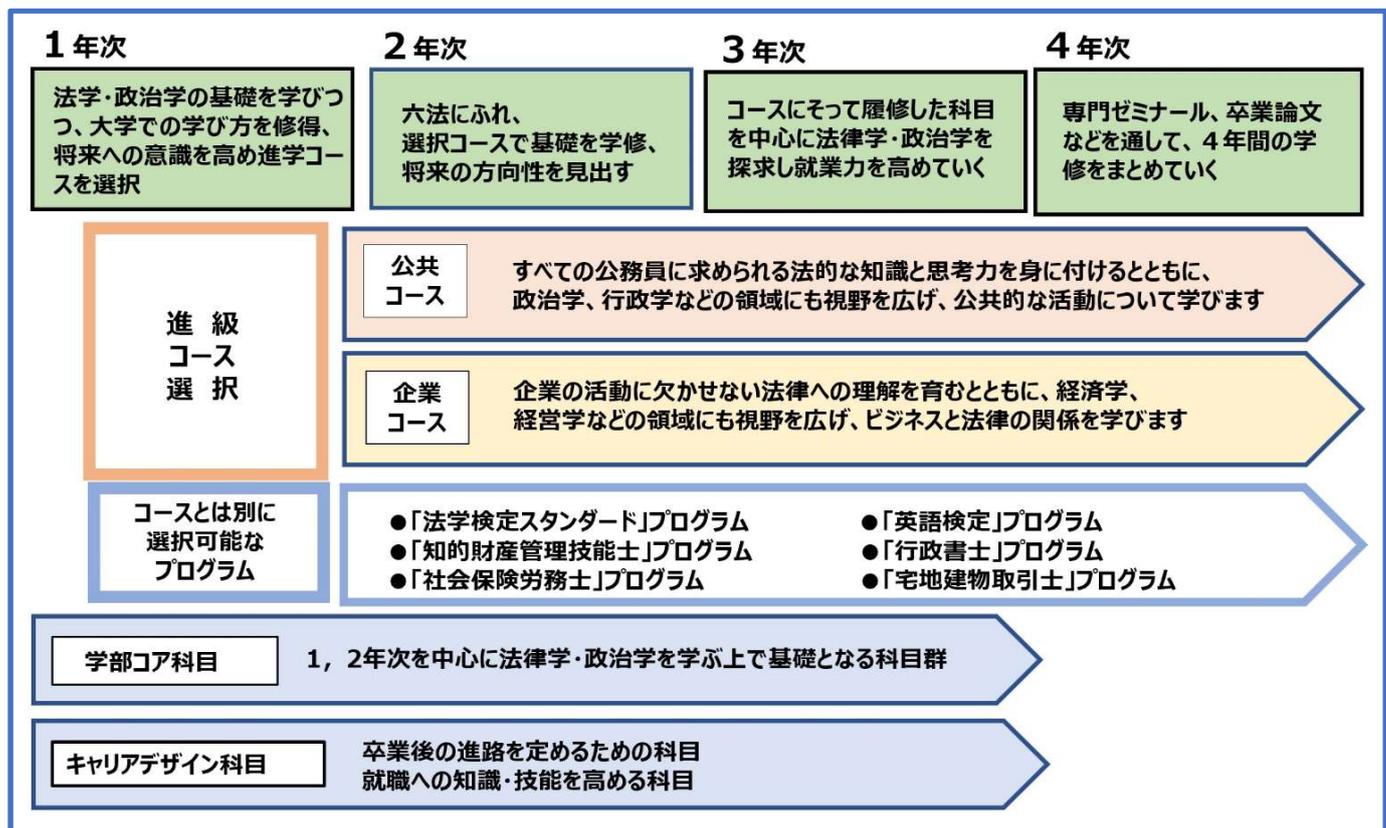
◆ 2年次には公務員対策特別演習や各種ゼミナールにより専門性を磨きます

2年次には、公務員採用試験専門の学校などと連携し「公務員対策特別演習 A・B・C・D・E」を開講します。より具体的な公務員の職種（警察官など）のためのエキスパートゼミナールB・Cやより高い専門性を身につけるためのアドバンストゼミナールが開講されます。資格取得の次のステップとして法学検定スタンダードの合格を目指します。

◆ 3年次には各々の進路に応じた就業力を高めます

3年次には、選択したコース(公共コース、企業コース)における重要科目を中心としつつ、法学・政治学の学びを深めます。2年次に引き続き就業力を高めるために、「公務員対策特別演習 F・G・H・I」、職業と人生、インターンシップ関連科目などが開講されます。

4年間の学びのイメージ図



公務員試験合格に向けた法学部の取組み

◆ 公務員対策特別演習ガイダンスの実施

2022年度から、新カリキュラムの科目「公務員対策特別演習」がスタートしました。開講科目は2年次に5科目（公務員対策特別演習A・B・C・D・E）、3年次に4科目（公務員対策特別演習F・G・H・I）あり、充実した内容になっています。体系的に学ぶことができるように、履修に先立ち担当教員よりガイダンスを実施しています。（写真1）。



写真1 公務員対策特別演習ガイダンス



写真2 模擬面接の様子

◆ 模擬面接の実施

公務員採用試験1次合格者には、元公務員の方の協力を得て、職種別に模擬面接を実施し、“面接力”アップを図っています。警察官、地方公務員行政職に加え、消防官についても模擬面接が実施されています。学生たちは、本番さながらの緊張感の中で模擬面接に臨んでいます（写真2）。

◆ 地域インターンシップ

公務員には一般企業と同様、社会人基礎力と行動力がもとめられます。地域インターンシップA・Bはそのような観点から開講されている科目で、教室の外での実地の体験を通じた学びをめざします。今年度、地域インターンシップBでは、むかわ町穂別を訪れ、有名な「むかわ龍」の博物館見学、穂別診療所副院長の香山リカ先生の講演を拝聴した後、町民の皆さんが作った生活支援会社の話を聞き、むかわ町の「まちおこし」関係者との間でディスカッションを行う機会を得ました。参加学生の1人は、「関係者の皆さんが口を揃えて、お金よりも町のため、人のためにやっているという言葉が印象に残った」と述べています。学生達は、地域の人々が活動している場所に自ら足を運ぶことに

よって、「生の声を聴く」、「現実を認識する」という貴重な経験ができました。



むかわ町の方々から話をうかがう